

新宮山彦ぐるーぷ 第 1778 回

平成 26 年度 世界遺産「吉野・大峯」地域連絡協議会参加報告

◇日 時； 平成 26 年 9 月 17 日(水) 13:30～16:15

◇場 所； 金峰山寺・聚法殿

◇参加者； 乾 克己、沖崎吉信、川島 功

◇議 事

1, 開会挨拶 地域振興部文化振興課；竹田尚起課長
総本山金峯山寺・宗務総長；田中利典

2, 講 演 「世界遺産を取り巻く状況・紀伊山地の霊場と参詣道」

の登録後 10 年が経過して (資料 I)

文化庁主任文化財調査官 本中 眞

- ・ 2014.7 月現在。世界遺産総数 1007 の内訳は、文化遺産 779、自然遺産 197、複合遺産 31、危険にさらされている遺産 46。日本では 18 件目。になる。
- ・ 富士山は「信仰の対象と芸術の源泉」として評価され、日本は文化的景観として推薦しなかった。
- ・ 富士山には、紀伊山地の霊場と参詣道の登録に比べて規制・勧告数が多く、2 年後に保全状況の報告書提出が要請されている。等の富士山に関する講演内容が主だった。

3, 協議事項 「保全・整備・活用に関する情報交換等」

(1) 自己紹介 (参加者名簿参照)

(2) 第 5 回「春日奥山古事の森」シンポジュームの紹介 (資料 II)

(3) 吉野町よりイベント資料説明 (資料 III)

(4) 五鉢嶺付近の斜面崩壊による世界遺産奥駈道流失に伴う迂回路について (資料 IV)

- ・ 資料説明と今後植生調査を行い、迂回路を関係者と決めたい。(五条市教育委員会)
- ・ 歩く道として登録されたものであり、バッファゾーンから外れた迂回路も何年後には登録されるのか、本来、尾根には靡 8 丁の不文律があり、バッファゾーンの範囲が少ないのではないか。(田中利典)
- ・ バッファゾーンから外れた迂回路は、流失すれば世界遺産として認められない。(文化庁)
- ・ 自然崩壊により流失した奥駈道の迂回路は 30m～50m の迂回路は遺産でなく、その後道は世界遺産というのは、世界遺産の参詣道は、本来繋がっている道であり、歩かれる迂回路も世界遺産となるようにすべきと文化庁に要望。(川島)

(5) 「持経宿の改築について」新宮山彦ぐるーぷが資料説明。(川島) (資料 V)

- ・ 改築資金は、今後前田勇一氏と同様に各教団、山仲間等に浄財寄付をお願いする所存を報告、支援・協力をお願いした。
- ・ 玉岡さんは朝日新聞の取材に応じられ(9 月上旬・朝日新聞・奈良版に掲載)、訪問者の応対や電話連絡されるまでに回復された。ひとえに各教団関係者や多くの方の病氣平癒の祈念と励ましで回復されました、この場を借りて御礼と報告をした。
- ・ 「峰の友」代表の浅井證善師は、深仙灌頂堂の床傷と傾き補修を玉岡さんの仲介で三井寺の了解を得て、9 月上旬に応急処置された。
- ・ 深仙宿・避難小屋の入口扉は、当会友の松本氏のご好意により、9/27 にアルミ製ドアに取替予定。
- ・ 9/13～9/14、釈迦ヶ岳～楊枝ノ森間の倒木を 30 本強切除したので、かなり歩きやすくなったと思う。(沖崎)

(記 川島)